

# 令和7年度 杉並区立大宮小学校 学校評価（自己評価）・学校関係者評価

## （1）学校経営方針に対する学校評価【教員回答】及び学校関係者評価 【教員回答：27名】

○学校経営方針〔目指す学校像のための方針〕の各項目に対して、各教員が行う自己評価

A：できた/十分に取組めた

B：概ねできた/概ね取り組めた

C：あまりできなかった/あまり取り組めなかった D：できなかった/取り組めていない

※達成率：AもしくはBと回答した割合

	No	目指す学校像のための方針	A	B	C	D	R7 達成率	取組/成果/状況	課題/今後の取組
主体的に学ぶ子どもの育成	1	何を学ぶか、どのように学ぶか、何ができるようになるかを明確にすることを意識した授業の実践。	10	17	0	0	100%	・児童の主体性に焦点を当てた校内研究を通して、全教員が公開授業を行った。児童の主体的に学ぶ姿について、研究を進めている。	・資質能力の育成を図ることが授業者の責任であり、しっかり意識できている。ただし、単元ごとの学習のねらい達成、学力の向上に反映しているかは課題。 ・次年度の校内研究において、引き続き研究を継続する。
	2	子どもが自己決定、自己選択できる場面や機会を増やした授業の実践。	13	14	0	0	100%	・教科や単元に応じて、または学校行事等において、児童の自己決定の場を増やしている。	・児童の意識実態調査では肯定率 85.5%【杉並独自項目(7)】であり、更に学びの個性化・個別化を意識した授業改善が必要。 ・教科の指導事項をしっかりとおさえつつ、自己決定、自己選択の機会を増やす。
	3	子どもの対話力を高める工夫を取り入れた授業の実践。	12	15	0	0	100%	・児童が自身の学習の成果を伝える活動を取り入れている。学習発表会の発表に内容についても、その点を意識して取り組んだ。	・児童の意識実態調査では肯定率 57%【学習の進め方(11)】、76.5%【学習の進め方(12)】となっており、積極的に対話で考えを伝え深める機会をつくる必要がある。
	4	一人1台端末を活用し、興味や関心に応じた学びや学び残しの状況や個々の課題に応じた学びの推進。	5	14	8	0	70%	・一人1台端末の活用は日常化している。また、一人1台端末の活用に限らず、児童自身に学び方について選択する機会を与えている。	・個々の課題に応じた学びの推進について、次年度どのように取り組むか、教育DX委員会を中心に検討していく。

	No	目指す学校像のための方針	A	B	C	D	R7 達成率	取組/成果/状況	課題/今後の取組
	5	思考を支えるツール、考えを共有するツールとして、さらには意見を交流し、協働的な学びを進めるためのツールとして一人1台端末を活用した、深い学び、対話的な学びの推進。	5	15	6	1	74%	・児童の思考を支えるツールとして一人1台端末を活用し、深い学びや対話的な学びを推進している。	・児童の意識実態調査では肯定率 87.5%【杉並独自項目(9)】であり、児童の活用能力は著しく向上している。さらに個別の学びでの活用から発展して、互いの考えを交流し広げる、または比較検討しながら深める機会を増やし、対話的な学びを進める。
	6	各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な授業の実践。	9	18	0	0	100%	・教科横断的な授業実践に取り組んでいる。	・総合的な学習等で、各教科からの発展・探究に取り組んでいる。各教科等の横断的な授業実践を引き続き実施する。
あたたかい人間関係を築く子どもの育成	7	特別支援教育の推進も含め、偏見や差別の心をなくし、個性を尊重する学校風土の構築。	17	10	0	0	100%	・児童同士が支え合える学校風土を構築することができている。	・この点は、本校の特長、強みと言える。今後も、この学校風土を守る。
	8	どの児童にも居場所がある学級経営、マイルームの活用などにより不登校ゼロを目指す。	16	10	1	0	96%	・地域人材の協力を得て、マイルーム(校内別室居場所)を開室し、教室以外の児童の居場所をつくっている。	・集団不適應児童が安心できる学級経営が基本だが、マイルームは一時居場所に最適。開室日を増やしていきたい。
	9	教科担任制により複数で児童を多角的にとらえ、児童理解の共有と支援・相談体制を充実させる。	18	9	0	0	100%	・教科担任制により、それぞれの学年が、組織的に学年運営をすることができている。	・学年主任を中心に他学級児童への支援や相談に関わり組織的に協働できた。副担任も加わり朝の会や給食指導等にも拡大し、共通理解していく。
	10	温かい人間関係を築くために様々な場面で対話や協働を大切にし、活動をとおして多様性を受け入れ、自他の違いを認め、個性を尊重し合える子どもが育つ教育の推進。	15	12	0	0	100%	・自他の違いを認め、個性を尊重し合える子どもが育つ教育を推進することができている。	・毅然とした指導とともに、人権意識をもち特性に配慮して、温かくきめ細かい言葉かけをしているか、常に自身の指導を振り返っていく。 ・東京青年会議所による「多文化共生」「合理的配慮」の出前授業を継続する。
	11	意見表明し他者の考えと折り合いをつけて活動することで、社会性や自己有用感を育てる。	10	17	0	0	100%	・道徳や特別活動を通して、社会性や自己有用感を育てている。	・児童同士が互いに認め合い、楽しく学校生活を送れるよう、児童のやりたい、挑戦したい気持ちを大切にしていく。
	12	理科・生活科での飼育・栽培活動、特別の教科_道徳での学びなど、様々な取組を通して、生命の不思議さにふれ、その重さ	4	23	0	0	100%	・低学年:植物栽培 中学年:ヤゴ大作戦、和田堀たんけん 高学年:移動教室自然体験 上記活動や道徳の授業等を	・引き続き、地域の自然を生かした体験活動を継続していく。

	No	目指す学校像のための方針	A	B	C	D	R7 達成率	取組/成果/状況	課題/今後の取組
		を考え、自他の命を大切にすることを育てる。						通して取り組んでいる。	
	13	自己の生き方を考え、自己の生き方の指針をもてる児童が育つ道徳教育の推進。また、道徳の時間を軸として、道徳性を養いながら友達を大切に力を合わせて活動できる児童を育て、いじめ・暴力などのない、思いやりあふれる学校づくりの推進。	13	14	0	0	100%	・道徳授業公開講座や道徳教育推進教員による公開授業、おおみや教室巡回指導教員による理解推進教育等の実践により、児童の道徳性を養っている。	・引き続き、道徳教育に力を入れていくとともに、年3回のいじめ防止に関する授業を実施し、児童一人ひとりがお互いを大切にする学校づくりを推進する。
	14	杉並区いじめ防止等に関する条例及び学校いじめ防止基本方針により、毎月学校いじめ対策委員会を開き、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめ等のない思いやりある学校づくりの推進。	17	10	0	0	100%	・毎月末の生活指導夕会を定例のいじめ対策委員会として設定し、各学年の情報共有を図っている。 ・児童同士のトラブルに対して管理職、学年教員、生活指導主任等が集まり、迅速に対応している。 ・いじめ防止に関する授業を実施している【道徳単元、弁護士による授業(4年)】	・年度当初の保護者会において、学校いじめ防止基本方針を周知し、学校としていじめ撲滅に対する姿勢を示す。
	15	他者意識を高め、互いの存在を認め、コミュニケーションの最初の一步となるよう、大人も児童も自ら進んであいさつを交わし合える学校づくり。	18	9	0	0	100%	・あいさつをすすんでいる児童が多い。 代表委員児童による、自主的なあいさつ運動、あいさつ啓発ソングの取組が見られた。	・学校経営方針の根幹に位置付け、児童も大人もあいさつを交わし合える学校づくりを推進するとともに、自分と他者の双方を大切にする児童を育てる。
心身ともに健康をめざす子どもの育成	16	体育の学習で、自分の課題をもちすすんで運動することの楽しさを味わえる指導の実践。	13	14	0	0	100%	・運動することの楽しさを味わえる指導を実践している。	・体育科の学習カードを充実させることで、自分の課題をもち、解決することに取り組む授業を実践する。
	17	休み時間に外での運動遊びを普及し、日常的・総合的に体力づくりの実践。	10	17	0	0	100%	・休み時間の外遊びを推進しつつ、3学期はなわとび週間を実施する。	・体力調査の結果を踏まえつつ、学校全体で取り組む運動を計画的に実施する。
	18	養護教諭や栄養士と協力して、睡眠や栄養の大切さを学ぶ授業の充実を図る。	16	11	0	0	100%	・養護教諭を栄養士が連携し、養護教諭による保健授業を実施している。	・「心・体・食」について専門家を招き、意識啓発・技能向上等を目的とした授業を行う。同時に保護者にも参観を呼びか

	No	目指す学校像のための方針	A	B	C	D	R7 達成率	取組/成果/状況	課題/今後の取組
									け、家庭と協力して児童の健康を支える。
	19	自分の好きなことや得意なことを伸ばし、夢をもってあきらめずに挑戦する強さを育てる。	11	16	0	0	100%	・各教員が、児童それぞれの良さを認め、励ましながら支える様子が見受けられる。	・「子どもの声で創る 子どもが主役の学校づくり」を学校経営計画の柱とし、児童が自分の好きなことや得意なことを伸ばせる学校づくりを行う。
目指す学校像に向けたその他の取組	20	外国語科・外国語活動の充実を図り、コミュニケーション能力を育成する。【英語生活体験の実施等】	12	15	0	0	100%	・ALT や JTE と連携し、外国語の授業の充実を図っている。英語生活体験を2346年、イングリッシュキャラバンを5年生で実施している。	・引き続き、1年生からの外国語活動や、英語生活文化体験、イングリッシュキャラバンを実施していく。
	21	学校支援本部と連携し、地域教材を生かした学習を展開して、地域に住むことに誇りをもたせる。	11	16	0	0	100%	・学校支援本部に支えられ、地域と共に歩む学校を推進することができている。 【授業支援、マイルーム、算数補習、漢字・英語検定等】	・児童の意識実態調査では肯定率 87%【杉並独自項目(1)】となっており、学校が楽しいことは、体験活動やゲストティーチャー、また実習補助等により豊かな教育活動の実現によるところが大きい。今後も支援をいただき継続したい。
	22	堀ノ内子供園をはじめとした近隣の幼稚園、子供園・保育園との交流の充実を図る。	16	10	1	0	96%	・近隣園との交流活動の機会を増やし内容も充実している。園児と児童、職員同士の関係性も深まっている。	・次年度も、近隣園との交流を充実させる。
	23	近隣の大宮中学校、済美小学校と連携を深め、各教科の系統性を大切に、学びの連続性を高めるよう義務教育9年間を見通した小中一貫教育に取り組む。	9	17	1	0	96%	・大宮中見学、3校合同地域清掃を行っている。	・児童と生徒の交流の場が広がるよう、小中一貫の取組を充実させる。
	24	特別支援教育コーディネーターを中心に、おおみや教室、SCとも連携して児童の心の健康にも注意する。	21	6	0	0	100%	・特別支援教育コーディネーターとSCが連携しながら、児童の心身の健康を支えている。	・SCの週1日勤務が、2日勤務になることが必要。ニーズが多く、対応しきれていない現状である。
	25	家庭・地域・学校のつながりを重視し、共に教育を考え、協働して教育を進めていく。	13	14	0	0	100%	・家庭・地域・学校のつながりを重視し、共に教育を考え、協働して教育を進めている。	・保護者教育調査では肯定率 46%【問 11】となっている。家庭と地域が教育活動に参加する機会を増やし、保護者の協力・協働意識を醸成したい。

No	目指す学校像のための方針	A	B	C	D	R7 達成率	取組/成果/状況	課題/今後の取組
学校関係者評価							<p>(1) 課題も残されているようだが、今後もこれまで通り、校内研究を発展させることで充実したより良い授業が行われることを期待している。児童の主体性を生かす、伸ばす授業づくりを推進してほしい。</p> <p>(2) 概ね前向きに授業に取り組んでいる児童の様子が見られる。個別に対応することの難しさがなくなることはないと思うが、今の状況は決して悪くはないように感じられる。</p> <p>(3) 授業のできるかは別として、小学生のうちからコミュニケーション力の育成が必要ではないかと思う。</p> <p>(4) C の回答が 8 名いるため、どのような理由で C に回答したのかの確認と、次年度の検討に結び付ける必要性があるのではないだろうか。⇒発達段階に応じて、一人1台端末の活用状況が異なる。本校では、1年生の1学期より一人1台端末を使用している。一人1台端末の活用の仕方について、児童の実態を把握し、個々の課題に応じた学びについて工夫する必要がある。</p> <p>(5) ツールとしての一人1台端末の使用はよいと思うが、対話的な学び、となると疑問が残る。</p> <p>(9) とても良い取組と捉えている。</p> <p>(23) 児童生徒の安全面を考慮しながら、清掃活動に限らず、中学生が小学生に向けて行っていた読み聞かせ等の活動を参考にしながら、児童と生徒の交流活動を模索していくとよい。</p> <p>(24) 児童保護者共に SC の必要性が高まっているように感じられる。勤務日数を増やせれば、と思う。SSW にも協力を依頼するとよい。</p> <p>(25) 保護者も地域の一員という意識が相変わらず低いと感じる。何らかの交流ができると良いと思う。</p> <p>※( )は設問番号</p>	

学校関係者評価・・・令和8年1月15日（木）大宮小学校学校運営協議会にて実施

☆次ページより（2）杉並区教育調査について

## (2) 杉並区教育調査【保護者回答】結果及び学校関係者評価

5：とてもそう思う 4：ややそう思う 3：どちらともいえない

2：あまり思わない 1：まったく思わない 回答不能：情報が十分になく、回答できない

【保護者回答数：154 家庭数：358】

No.	観点	5,4と回答(%)	3と回答(%)	2,1と回答(%)	回答不能(%)
1	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。	64	30	7	0
2	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。	71	22	6	1
3	子どもは、人権に関する多様な価値観について学んでいる。	55	34	8	4
4	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	55	30	10	4
5	連携する小・中学校による小中一貫教育(小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等)が進められている。	25	39	24	12
6	子どもは、児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	60	27	12	1
7	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	47	37	11	5
8	学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある。	40	38	16	6
9	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している。	59	27	15	0
10	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている。	91	7	0	0

No.	観点	5,4と回答(%)	3と回答(%)	2,1と回答(%)	回答不能(%)
11	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている。	46	34	17	3
12	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	35	37	18	9
13	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。	25	42	17	16
14	子どもは、学校生活を楽しんでいる。	78	16	7	0
15	学校は、児童と幼児の交流、保護者への理解啓発等、幼児教育から小学校教育への円滑な接続を意識した取組を積極的に行っている。	50	35	10	5
16	子どもは、通級指導教室・特別支援教室で学ぶことによって、学校生活全般への参加がしやすくなっている。【☆特別支援教室】	88	13	0	0
17	学校は、特別支援教育の現状や上級学校又は社会人の生活など、障害者に関する様々な情報を、保護者会や個人面談、進路説明会などの機会をとおして提供している。【☆特別支援教室】	88	13	0	0
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育活動の様子を保護者が見る機会が少ないと思われる。保護者にとって、保護者への依頼や参加の呼びかけは、時間に余裕をもって早めに伝えられるとよい。予定を組む上では、そのような配慮が必要。他学年(低・中・高毎など)のサポートを呼びかけてもよいのでは</li> <li>・保護者同士がつながる、保護者と地域がつながる機会を増やしていくとよい。</li> <li>・保護者の回答数を増やす工夫も必要。学校からの情報提供、連絡方法のオンライン化が進行しすぎることも、課題を生み出すことになる。紙ベースでのお知らせの必要もある。</li> <li>・子どもが安心して学校生活を送ることが一番大切な視点。その点の新たな工夫や改善策が望まれる。</li> </ul>				
学校所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の学習や校外学習、企業等の出前授業等において、保護者の参加・参観の機会を増やすとともに、その機会についての学校からの働きかけを強化する。また、そのような活動の様子を保護者や地域に発信していく。</li> <li>・保護者の異学年交流の機会を増やす工夫も考える。</li> </ul>				

☆次ページより (3) 杉並区意識・実態調査について

(3) 杉並区「意識・実態調査【456年児童回答】」結果と「教育調査【教員回答】(※一部学校評価)」について  
 (★類似調査項目による比較) 【肯定率】

No.	児童「意識・実態調査」 【5 杉並区独自項目(6)】	児童(%)	教員(%)	教員「教育調査」 【※一部学校評価】
1	杉並区独自項目(6): 新しいことを学んで身に付けようとするとき、自分で計画を立てて学習を進めることができる。	78.5	69	教育調査質問項目1: 授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。
2	杉並区独自項目(7): 授業では、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学んでいる。	85.5	83	教育調査質問項目2: 授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。
3	杉並区独自項目(8): 授業中、分からないことがあれば、先生が自分に合わせて教えてくれる。	66	91	教育調査質問項目3: 授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている。
4	杉並区独自項目(9): 授業では、タブレット端末を活用している。	87.5	86	教育調査質問項目16: 児童・生徒一人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。
5	杉並区独自項目(3): 相手が自分とは違う考えや気持ちでも受け止めている。	89	100	(学校評価項目11): 意見表明し他者の考えと折り合いをつけて活動することで、社会性や自己有用感を育てる。
6	杉並区独自項目(2): いまの学校のみんななら、協力して、全員が通うことが楽しくなる学校をつくれると思う。	75	100	(学校評価項目13): 道徳の時間を軸として、道徳性を養いながら友達を大切に力を合わせて活動できる児童を育て、いじめ・暴力などのない、思いやりあふれる学校づくりの推進。
	杉並区独自項目(4): いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	95.5		
・「3」において、教員は児童一人ひとりに対する指導・支援をしていると捉えているものの、児童の視点では分からないことがあるとき、その分がたい、知りたい、聞きたいという学びの欲求が満たされていない実態をうかがうことができる。この結果を受け止め、授業改善を含め校内研究の取組をより充実させ、児童一人ひとりの学びの質を向上させていく。				

(終)